

営農技術情報

—畑作(ばれいしょ②)—

令和元年 6月3日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524
JA道北なよろ TEL01655-3-2521
JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

～萌芽後から害虫の発生に注意しましょう！～

植え付けの早かったほ場では萌芽が始まっています。

本年は、少雨により土壌が乾燥していますので、形成した培土が崩れないよう、
時機を見計らって、培土作業を進めて下さい。

1 中耕・培土

- ・低温や土壌水分が多い時の作業は回避しましょう。
- ・着蕾期以降の作業は、根やストロンの切断により減収を招く恐れがあります。それまでに本培土を完了するようにしましょう。
- ・本培土の高さ（底部～培土頂部まで）は25cm程度とし、頂部が窪まないように作業機を調整してください。本年は土壌の乾燥や強風により培土が崩れ、覆土深が浅くなるおそれがありますので、覆土深も確認しましょう（本培土時で15cm以上を確保）。
- ・畦ずれは緑化発生の原因となりますので、作業速度や精度を確認しましょう。

<中耕・培土時期の目安(慣行培土)>

培土時期	作業内容
萌芽揃	除草を兼ねて中耕
萌芽後 10～15 日後	中耕を兼ねて半培土
萌芽後 20 日頃	本培土:根元まで土を上げる(多少茎葉が埋没しても影響なし)。

2 病虫害防除

高温少雨で推移しているため、害虫の発生が早く、発生量も多くなるおそれがあります。

萌芽後は、ほ場を観察し、発生を確認した時点で防除を実施しましょう。

【防除薬剤例】（登録内容は R1.5.31 現在）

防除時期	対象害虫	薬剤名	希釈倍率	10a当り 散布水量
6月上旬 (発生時に防除)	アブラムシ類	ウララDF	2,000～4,000倍	100ℓ
6月中旬	疫病 (※1 高温少雨の 場合は省略可能)	グリーペンコゼブ水和剤	400～600倍	100ℓ
	アブラムシ類 ナストビハムシ	ゲットアウトWDG	3,000倍	
6月下旬 (着蕾～開花始)	疫病	リライアブルフロアブル	800～1,000倍	100ℓ
	アブラムシ類 オオニジュウヤホシテントウ	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000～15,000倍	